

淡江大學 109 學年度第 2 學期課程教學計畫表

課程名稱	人文社會研究 A I 日語言語處理與應用 (四)	授課 教師	落合由治 OCHIAI YUJI
	JAPANESE LANGUAGE PROCESSING AND APPLICATION BY ARTIFICIAL INTELLIGENCE		
開課系級	日文二碩士班 A	開課 資料	實體課程 選修 單學期 2學分
	TFJXM2A		
課程與SDGs 關聯性	SDG3 良好健康和福祉 SDG4 優質教育 SDG8 尊嚴就業與經濟發展 SDG9 產業創新與基礎設施		
系 (所) 教 育 目 標			
本系碩士班之教育目標在於培育具備以下能力之日語人才： 1. 培養具備良好日語表達能力之人才。 2. 培養日本文學相關領域之研究人才。 3. 培養日本語學、日語教育相關領域之研究人才。 4. 培養日本文化相關領域之研究人才。 5. 培養具有國際觀及獨立思考之人才。			
本課程對應院、系(所)核心能力之項目與比重			
E. 具備使用工具書蒐集資料、以及專業書面與口頭報告之能力。(比重：100.00)			
本課程對應校級基本素養之項目與比重			
3. 洞悉未來。(比重：50.00) 7. 團隊合作。(比重：50.00)			
課程簡介	1.了解目前流行文學批評理論、文化記號論等與文學作品讀解實踐於個案之沿用 2.研究日語文章結構、篇章語言學與言談語言學之方法。課程中亦將研究探究日語之篇章與談語結構及規則。 3.從媒體、文化、翻譯等世界文化論觀點來看、分析作品。 4.每箇學生發表自己的研究觀點、討論、結束前必須繳交報告。		
	The main aim of this class is an introduction of method of research about Japanese Murakami Haruki literature's text structure from view point of discourse linguistics, media analysis, cultural study, criticism theory and so on. In the curriculum we will also study Japanese text with to discuss the language structure and the rule. Every student must express own research viewpoint, discussion, conclusion and write the report about text-works.		

本課程教學目標與認知、情意、技能目標之對應

將課程教學目標分別對應「認知 (Cognitive)」、「情意 (Affective)」與「技能(Psychomotor)」的各目標類型。

- 一、認知(Cognitive)：著重在該科目的事實、概念、程序、後設認知等各類知識之學習。
- 二、情意(Affective)：著重在該科目的興趣、倫理、態度、信念、價值觀等之學習。
- 三、技能(Psychomotor)：著重在該科目的肢體動作或技術操作之學習。

序號	教學目標(中文)	教學目標(英文)
1	1.了解日語文章結構、篇章語言學與言談語言學之現況與研究方法。	1.This class focuses on learning the methods of researching in text structure, text linguistics and discourse study of Japanese.
2	2.自己了解日語文章結構及合乎邏輯之推論方法、規則。	2.Through this class, students will learn the basic abilities to study a text structure, including organizing, collecting and analyzing data, expressing critical thinking and drawing a conclusion.

教學目標之目標類型、核心能力、基本素養教學方法與評量方式

序號	目標類型	院、系(所) 核心能力	校級 基本素養	教學方法	評量方式
1	認知	E	37	講述、討論、實作	作業、討論(含課堂、線上)、報告(含口頭、書面)
2	技能	E	37	講述、討論、實作	作業、討論(含課堂、線上)、報告(含口頭、書面)

授課進度表

週次	日期起訖	內 容 (Subject/Topics)	備註
1	110/02/22~ 110/02/28	介紹python自然語言處理基礎 (準備自己的PC)	
2	110/03/01~ 110/03/07	介紹python自然語言處理基礎 (基本命令)	
3	110/03/08~ 110/03/14	介紹python自然語言處理基礎 (基本命令)	
4	110/03/15~ 110/03/21	介紹媒體分析方法、批評理論、文化理論研究法 (利用text mining)	
5	110/03/22~ 110/03/28	介紹python自然語言處理基礎 (コーパス)	
6	110/03/29~ 110/04/04	教學行政觀摩週	
7	110/04/05~ 110/04/11	介紹python自然語言處理基礎 (テキストの前処理)	
8	110/04/12~ 110/04/18	介紹python自然語言處理基礎 (特徴エンジニアリング)	
9	110/04/19~ 110/04/25	參加碩士論文構想發表・中間發表	

10	110/04/26~ 110/05/02	介紹python自然語言處理基礎（機械學習アルゴリズム）	
11	110/05/03~ 110/05/09	介紹python自然語言處理基礎（ニューラルネットワーク）	
12	110/05/10~ 110/05/16	介紹python自然語言處理基礎（単語分散表現）	
13	110/05/17~ 110/05/23	介紹python自然語言處理基礎（テキスト分類）	
14	110/05/24~ 110/05/30	介紹python自然語言處理基礎（系列ラベリング）	
15	110/05/31~ 110/06/06	介紹python自然語言處理基礎（系列変換）	
16	110/06/07~ 110/06/13	設計自然言語處理1（學生發表與討論）	
17	110/06/14~ 110/06/20	設計自然言語處理2（學生發表與討論）	
18	110/06/21~ 110/06/27	設計自然言語處理3（學生發表與討論）	
修課應 注意事項	1.日本語力養成のために授業では日本語による質疑、討論、および研究発表（一人最低1回＝平時評量30％）、期末のレポート作成（60％）を行います。 2.今回は、AI関係のプログラミングで使われるPythonの基礎的なプログラミングと、pythonを使ってできる自然言語処理の基礎を練習します。プログラムの内容理解が主です。 3.受講者の人数によって発表回数を決めます。論文等を読む時間がないときは、知識の部分は示した資料により各自で図書館を利用して補強するようにしてください。 4.自然言語処理のプログラムの基礎を学び、受講した学生の皆さんに書かれたプログラムについて、内容の処理を発表してもらい、プログラムで何をしているのか皆で討論します。 5.先輩で2,3年生の構想発表時に研究計画書が十分に書けない例が目立ちます。こうした場合は修了できないので、レポートの書式と計画書の書式を必ず教科書等で確認し、書けるように練習しておいてください。 6.最近、先輩で「何をすればいいかわかりません、先生、答えを教えてください」という人が増えてきました。これでは修士論文は完成できません。自分で目標を決め、一定の方法で、対象を分析して答えを出すのが、修士の能力です。知識を覚えることが基本の入試や学部の勉強よりも、大学院の勉強は質が一步あがります。以前の勉強法を捨てて新しい方法を見に付けるように練習してください。 8.iclass及TronClassを利用します。また、notebookPCでプログラミングの練習をします。Windows版のPCを準備してください。		
教學設備	電腦、投影機、其它(DVD放映機)		
教科書與 教材	曾秋桂·落合由治（2010）『我的第一堂日文專題寫作課』瑞蘭國際（レポートの書き方の手本） 曾秋桂·落合由治（2011）『我的進階日文專題寫作課』瑞蘭國際（レポートの書き方の手本）		
參考文獻	石田基弘（2017）『Rによるテキストマイニング入門』森北出版 秋田喜代美，能智正博監修（2007）『はじめての質的研究法，教育，学習編』東京図書 土屋祐一郎（2019）『自然言語処理アプリケーション開発入門』リックテレコム 淡江大學線上課程https://tku.tibame.com/courselibrary		
批改作業 篇數	2 篇（本欄位僅適用於所授課程需批改作業之課程教師填寫）		
學期成績 計算方式	◆出席率： 10.0 % ◆平時評量：30.0 % ◆期中評量： % ◆期末評量： % ◆其他〈提出期末報告〉：60.0 %		

備 考	「教學計畫表管理系統」網址：https://info.ais.tku.edu.tw/csp 或由教務處 首頁→教務資訊「教學計畫表管理系統」進入。 ※不法影印是違法的行為。請使用正版教科書，勿不法影印他人著作，以免觸法。
-----	--